きらめき活動 2025

県民活動助成事業・若者チャレンジ応援事業

報　告　書



廃校文化祭の豊北かるたで真剣勝負



保護者は離れて見守るキッズマーケット



楽しみながら竹林の整備



「スヌーズレン」を家族で体験

公益財団法人
山口きらめき財団
YAMAGUCHI KIRAMEKI FOUNDATION

はじめに

山口きらめき財団では、多くの皆様からいただいた寄付金等を活用し、団体の自立や地域課題の解決に取り組む県民活動団体に対する助成事業（助成金の交付）を実施しています。

この助成事業により、県内各地域の幅広い分野で世代を超えた多くの方々による熱意あふれる活発な活動が展開され、地域の活性化や地域の絆づくりに大きく貢献しています。

この冊子は、令和７年度に当財団が助成した４４団体の活動をまとめたものです。

活動団体をはじめ、県民の皆様に是非ご覧いただき、今後の活動の参考として広くご活用いただければ幸いです。

令和８年（２０２６年）１０月





助成金交付式　令和7年5月29日

「きらめき活動２０２５」について

・団体の代表者名、構成員数、問い合せ先は、令和８年９月現在のものです
・「活動現場レポート」は、当財団職員が訪問した活動の現場の状況を掲載しています

目　次

2025年度　きらめき活動助成事業・若者チャレンジ応援事業
助成金交付団体

◆自立支援「ゆめ」プログラム

食料配布チーム モッテイキーネ … 1
スマホ社会を考える会 … 2
ナメクジウオ環境クラブ … 3
愛着子育てサポートの会 … 4
STAND Still山口 … 5
藤川章造顕彰会 … 6
向山紅葉隊 … 7
スマイルプランミュージック … 8
ブラジル文化交流会 … 9

◆課題解決支援「はな」プログラム

一般社団法人 多言語図書館 … 10
夾竹桃の会 … 11
高齢社会をよくする下関女性の会（ホーモイ） … 12
下関空襲・終戦展実行委員会 … 13
Mint … 14
特定非営利活動法人 IRIS … 15
うべ交通まちづくり市民会議 … 16
宇部自然保護協会 … 17
一般社団法人 SDGsてらす … 18
CAP西京 … 19
徳地人形浄瑠璃保存会 … 20
特定非営利活動法人 山口せわやきネットワーク … 21
ハッピークローバー … 22
ボランティア団体 スヌーズレンを楽しむ会 … 23
日立のぞみ会 … 24
特定非営利活動法人 フリースペースコティ … 25
愛宕まちづくり協議会 … 26
いわくにだれでもジェンベ … 27
子育てサポート にじのわ … 28
周東古代ハスの会 … 29
いぬいとみこの会 … 30
Seeds … 31
ふるさと維新YYプロジェクト … 32
特定非営利活動法人 しゅうなんまちなか保健室 … 33
ふれあいの森なんでも工房 … 34
難病サポートfamiliaやまぐち … 35
山口DARC … 36
一般社団法人 七福 … 37
ヤッチャレ田んぼ … 38
いわくに竹の会 … 39

◆若者チャレンジ応援事業助成金

学生団体 フリーキャンパス … 40
特定非営利活動法人 OKAI CLUB … 41
平和志向のまちづくりの会 … 42
TipTie実行委員会 … 43
めで部 -Medebu- … 44

団体名　食料配布チーム　モッテイキーネ　（下関市）

代表者名	大下　篤子	団体の目的	
構成員数	5人	• 貧困家庭・学生に食料を無償で配布することを通して、経済的支援を必要とする方々の支援の一助とする	
設立	2023年5月		
問い合せ先	j6h22xe9@ene.megaegg.ne.jp		

事業名　無料食料配布

事業の目的

○ 下関市民に対して、無料で食料を提供し、食生活の充実を図る

事業の内容

○ 食料支援の会、学習会の開催

開催日	① 5月24日（土） ④11月29日（土） ② 7月26日（土） ⑤ 1月24日（土） ③ 9月27日（土） ⑥ 3月28日（土）	開催場所	風の家（下関市）	参加者	延べ203人
内容	• 食料の無料配布 • スタッフスキルアップ講座				

事業の成果

○ 資金の余裕ができたことから計画どおりの活動ができた
○ 学習会は、講師による的確なアドバイスと情報提供により密度の高いものとなった
○ 他団体との連携が少しずつではあるが進んだ

活動現場レポート

食料支援の会（食料無料配布会）・学習会
日時：9月27日（土）9：30～10：30／場所：生野町風の家

◆ スタッフ以外に地域の方2名も参加したスキルアップ講座は、講師の自らの介護体験（夫が40代に認知症を発症）を織り交ぜ、介護をとりまく現状と今からできる対策を考えるという内容でした。

◆ 続いて、食料の配布が始まりましたが、早くから配布を待つ方の列ができており、バランスよく小分けにされた食料品の袋（25セット）はあっという間になくなりました。



◀ 配布食料



▲ スタッフスキルアップ講座

団体名　スマホ社会を考える会　（下関市）

代表者名	金原　洋治	団体の目的	
構成員数	7人	• スマホ育児の是正、スマホ依存症予防のために市民啓発活動をすること • 親子の健全な関係構築を促し、スマホに頼りすぎない育児ノウハウ（CAREスキル）を広めていくこと	
設立	2024年1月		
問い合せ先	kiyoe.yoshimizu@gmail.com		

事業名　子どもの健全な成長のため親子関係やスマホの在り方を考える

事業の目的

○スマホに頼らない遊びの提案、親子関係改善講習を通じて、子どもの健全な成長を支援する

事業の内容

○大好き♥さがし！～子ども祭り～

開催日	10月19日（日）	開催場所	やすらガーデン（下関市）	参加者	150人
内容	• 子ども祭り（ステージ、縁日、手作体験） • CAREプログラム（保護者対象ワークショップ）				

事業の成果

○CAREプログラムでは、子どもと大人の絆を深め、子どもとよりよい関係を築く時に大切な養育のスキルを学んでもらうことができた
○親子でスマホを置いて遊べる時間を創出できた
○イベントの開催に必要なサポートメンバーを探す中で、市内で活動している人たちと繋がりを持つことができた

現場活動レポート

大好き♥さがし！～子ども祭り～
日時：10月19日（日）10：00～13：00／場所：やすらガーデン

◆ CAREプログラムは、2～3人で1グループになり、ロールプレイを通してスキルを習得する形で実施されました。男性6人、女性13人が参加され、真剣に取り組む参加者からの質問が多くあり、充実した内容となっていました。
◆ ステージのプログラムは、ただ見るだけではなく実際に「体験する」という、子どもたちが体で楽しむ仕掛けが含まれていました。



◀ ロールプレイ

ステージで「体験する」▶
子どもたち



団体名　ナメクジウオ環境クラブ　（山口市）

代表者名	児玉　純子	団体の目的	
構成員数	18人	• 第四次食育推進計画では、環境配慮型農作物の利用促進が求められていることから、その一助となるべく、環境に良い農作物を紹介する「エシカル食育講座」を広める	
設立	2024年5月		
問い合せ先	junkokodama@icloud.com		

事業名　「エシカル食育講座」講師養成及び環境啓発事業

事業の目的

○「エシカル食育講座」が広まることで持続可能な社会の実現に貢献する

事業の内容

○「エシカル食育講座」講師養成研修

開催日	①6月　3日（火） ②6月　4日（水） ③9月12日（金）	開催場所	①山口市白石地域交流センター ②山口市白石地域交流センター ③山口市吉敷地域交流センター	参加者	①　7人 ②30人 ③35人
内　容	• 食育講座の指導者としてのスキルを身につけるための講座				

○夢みる給食上映会

開催日	①9月22日（月） ②9月23日（火・祝）	開催場所	YMfg維新セミナーパーク	参加者	323人
内　容	• 映画の上映、「ナメクジウオ環境クラブ」の紹介、「エシカル食育講座」の募集				

○親子対象エシカル食育講座

開催日	10月5日（日）	開催場所	小郡地域交流センター	参加者	28人
内　容	• 環境に良い農作物を使った親子調理とお話会				

事業の成果

○「ナメクジウオ環境クラブ」の会員が倍増した
○「エシカル食育講座」講師を5人育成できた
○団体の周知に一定の効果があり、繋がりを拡げることができた

活動現場レポート

「夢みる給食」上映会
日時：9月22日（月）13：30～15：30／場所：ＹＭｆｇ維新セミナーパーク

◆オーガニック給食を夢みる市民、市長、農家たちの活躍を描くドキュメンタリー映画の上映会が開催されました。
◆農家、保育関係者、子ども食堂関係者など多方面からの参加があり、上映後、多くの質問や食育講座の問合せなどが寄せられ、関心の高さが伺えました。

団体名　愛着子育てサポートの会　（萩市）

代表者名	佐々木 澄江
構成員数	7人
設立	2024年3月
問い合せ先	aityakukosodate@ymail.ne.jp

団体の目的

- 0～3歳児を育てている家庭の親子が安心・安全に過ごしながら、子どもの探索活動を促す「愛着子育て」が実践できる環境づくりを目指す

事業名　子育て支援の充実と自立

事業の目的

○幅広い親子が集いやすい場所づくりをし、回数を増やす
○冊子などの制作により寄付等で長く続けられる運営の土台をつくる

事業の内容

○ 親子の居場所「COCOIRU」開催

開催	年間10回開催	開催場所	萩市市民活動センター結 萩市総合福祉センター	参加者	延べ 247人
内容	• 0～3歳の子どもを育てる家族を対象に、安心・安全・探索のある居場所（愛着子育ての場）を提供し、自由遊び、大人向けストレッチ、ふれあい遊び、絵本の読み聞かせ等を実施				

○ 子どもの遊び場「COCOキッズ」開催

開催	9月から5回開催	開催場所	萩市総合福祉センター 椿東小地域ふれあいセンター	参加者	延べ 44人
内容	• 探索活動が活発な子どもが家庭では体験しにくい遊びや仲間との関りを体験できる場を提供				

事業の成果

○継続的に子育てひろばを開催することにより地域や行政の信頼を得ることができた
○自主事業や広告費、寄付からの収益により安定した運営の足がかりができた
○協力者が増え、NPO法人立ち上げの機会となった

活動現場レポート

保育士がひらく遊びの時間　"COCOキッズ"
日時：9月9日（火）10：00～11：30／場所：萩市総合福祉センター

◆課題としてきた、「2～3歳児が楽しめる場所をつくる」ため「COCOキッズ」が試行開催されました。
◆①絵本の読み聞かせ ②絵本をモチーフにしたお絵かきやシール貼り、スタンプ遊び ③自由遊び ④パイナップルダンスと、保育士ならではの2～3歳児の集中力を見極めた自主性を大切した企画で、とても楽しく過ごされていました。
◆子どもが楽しく集中して過ごせていたので「今後もこのプログラムを進めていきたい」と自信を深めておられました。





団体名　スタンド　スティル STAND Still山口　（防府市）

代表者名	野口　麻衣子
構成員数	8人
設立	2025年3月
問い合せ先	standstillyamaguchi@gmail.com

団体の目的

- 性暴力サバイバーが公に声をあげなくても思いや考えを表現できる場作りに関する活動により、日本社会に性暴力に関する理解が深まることを目的とする

事業名　STAND Still山口：性暴力サバイバービジュアルボイス

事業の目的

○ ニュース等で第三者から語られることの多い性暴力サバイバーが、自ら写真を撮影し主体的に表現することで、性暴力に対する社会の認識を変えることを目指す
○ 言葉に頼らず自分を表現する手段と場を提供することで、自分の気持ちを言葉にできず相談窓口にたどり着けない人やカンセリングに抵抗のある人が自らエンパワーメント（力をつけること）することを促す

事業の内容

○ 写真表現ワークショップ

開催日	①6月 7日（土） ②7月12日（土） ③8月11日（月）	開催場所	①下関市生涯学習プラザ ②下関市生涯学習プラザ ③zoom	参加者	①5人 ②5人 ③5人
内　容	• 講師：大藪順子氏（フォトジャーナリスト） • 課題テーマの写真を撮影した上で、作品にこめた思いを語ったり、客観的に見ることで自分の思いを整理し、言葉にしづらい思いや普段考えていることを写真を通して表現する術などを学ぶ				

○ 作品展示

開催日	9月19日（金）	開催場所	KDDI維新ホール	参加者	30人
内　容	• 写真表現ワークショップの活動による作品を横浜・東京の団体の作品とともに展示（日弁連主催「犯罪被害者シンポジウム」と同時開催）				

事業の成果

○ 少数ではあるが、被害者が集まって写真を通して思いを整理、表現するワークショップを開催することができた
○ 日弁連のシンポジウムと同時開催で展示会を開催することができ、全国の弁護士にもサバイバーの思いを届けることができた

活動現場レポート

性暴力サバイバービジュアルボイス　写真表現ワークショップ
日時：7月12日（土）10：00～12：00／場所：下関市生涯学習プラザ

◆ 講義では、上手に撮る必要はなく、その人にしか撮れない写真があること。また、展示会で作品を発表して被害者側の視点を社会に発信することは、刷り込まれた被害者像を変える一助となるが、展示会への出品の有無は参加者の意志に委ねられるなどのお話がありました。
◆ 意見交換も行われ、芸能人の性暴力などの話題に様々な意見がありました。

大藪順子氏の講義 ▶



団体名　藤川章造顕彰会　（防府市）

代表者名	田頭 よしたか	団体の目的
構成員数	56人	• 教育者及び画家として活動し令和4年に逝去した藤川章造氏の事績等を顕彰し、その活動を通じて郷土の芸術文化の振興に寄与する
設立	2024年10月	
問い合せ先	km97@eagle.ocn.ne.jp	

事業名　郷土の芸術文化振興を目的とした藤川章造画業顕彰事業

事業の目的

○作品展の開催及び作品展に向けた広報をとおして、藤川章造の制作活動及びその人物についての顕彰を進める
○郷土で活動した画家藤川章造氏の作品に触れる機会を提供する
○作品の観賞により青少年の感性を刺激し、芸術への興味関心を高める機会とする

事業の内容

○藤川章造展

開催日	1月15日（木）～25日（日）	開催場所	防府市地域交流センターアスピラート	参加者	2,119人
内容	• 藤川章造夫人所蔵の絵画以外にも市内の公的施設や個人所有の絵画を藤川夫人監修の元、作品の検証を行い展示				

事業の成果

○多くの市民に作品に触れてもらうことで、藤川章造及び本会の認知度を上げることができた
○作品の所蔵保管状況の情報を記録することができた

現場活動レポート　藤川章造展
日時：1月15日(木)9:00～17:00／場所：防府市地域交流センターアスピラート

◆オープニングセレモニーでは、田頭会長、来賓のあいさつに続いて、藤川夫人から感謝と「作品から何かの感情が芽生えてもらえたらうれしい」との言葉がありました。
◆その後のギャラリートークでは、田頭会長、三輪事務局長から藤川章造氏とのエピソードや作品の説明がありました。
◆会場に整然と展示された80点以上の作品は、藤川家以外にも様々な場所で所蔵されていたものも多数あるとのことで、スタッフの皆さんの苦労が偲ばれました。



▲ 田頭会長あいさつ



◀ ギャラリートーク

団体名　向山紅葉隊　（光市）

代表者名	小林　孝二	団体の目的	
構成員数	7人	• 幕末に光市で結成された第二奇兵隊の顕彰と、その資料を保管している光市最古の図書館「向山文庫（こうざんぶんこ）」の保全	
設立	2025年3月		
問い合せ先	kaisho@jasmine.ocn.ne.jp		

事業名　第二奇兵隊を大河ドラマに　光市と周防大島町の歴史連携

事業の目的

○「第二奇兵隊」の幅広い功績を明らかにし、次世代につなぐ
○関係する史跡が多い周防大島町と連携して顕彰活動や保全活動を進める

事業の内容

○第二奇兵隊勉強会

開催日	①6月19日（木） ②6月23日（月） ③6月29日（日）	開催場所	①長徳寺（光市） ②帯石観音（周防大島町） ③海商館（光市）	参加者	①10人 ② 3人 ③12人
内　容	• 歴史解説、史跡等の見学				

○第二奇兵隊サミット

開催日	8月14日（木）	開催場所	光市民ホール	参加者	75人 （内オンライン5人）
内　容	• 紙芝居動画、一人芝居、隊士子孫によるディスカッション				

○第二奇兵隊ドライブツアー

開催日	2月1日（日）	開催場所	光市、柳井市、上関町	参加者	8人
内　容	• 各市町の第二奇兵隊ゆかりの史跡を巡る				

事業の成果

○郷土の歴史に興味を持ってもらい、第二奇兵隊の認知度を上げることができた
○活動を進める中で、新選組との交戦を示す古資料地図など数点の資料を発見することができた
○第二奇兵隊サミットの概要　https://kaishokan.com/info/6676109

活動の写真



▲ 長徳寺住職の歴史解説



▲ 第二奇兵隊サミット

団体名　スマイルプランミュージック　（山陽小野田市）

代表者名	寄本 和美	団体の目的	
構成員数	7人	• 音楽という楽しい文化を山陽小野田市の皆様に届ける	
設立	2024年2月		
問い合せ先	yoricopatura@gmail.com		

事業名　スマイルプランミュージックＬｉｖｅ

事業の目的

〇いろんなジャンルのアーティストを紹介し、多岐にわたる音楽の文化を伝え、山陽小野田市の魅力をPRする

事業の内容

〇スマイルプランミュージック チャリティーライブ

開催日	6月28日（土）	開催場所	山陽小野田市民会館	参加者	約200人
内容	• バンド演奏（6グループ） • 防災ブースの展示 • ハンドケア • 絵画展示 • 能登半島地震・豪雨災害への募金				

事業の成果

〇広報を充実することができたこともあり、多くの方に来場いただくことができた
〇イベント開催により、会員のスキルアップを図ることができ、ノウハウを蓄積することができた
〇ボランティアをお願いした東京理科大学を始め、今回のイベントを機に他の団体と繋がりを持つことができた

活動現場レポート

スマイルプランミュージック　チャリティーライブ
日時：６月２８日（土）１３：００～１６：００
場所：山陽小野田市民会館　文化ホール

◆MCを『よりこ』、助手を『ジコンナ』が務め、幕間にも開催趣旨（音楽を市民に届ける・チャリティ募金）の説明がされ、出演者も各々『よりこ』への賛辞を送りました。
◆最後の『よりこSバンド』のステージでは、ダンスチームや各出演者も総登場してステージを盛り上げ、『よりこ』が7年前に単独で活動を始め、仲間と共に今回初のホール公演に辿り着いたこと、来場者への感謝を述べて、感激で言葉に詰まる場面もありました。





▲ ライブの様子

団体名　ブラジル文化交流会　（山陽小野田市）

代表者名	熊谷 たえこ	団体の目的	
構成員数	10人	• 日本とブラジルの文化交流を深め、相互理解を促進する • ブラジル文化（音楽、ダンス、食文化など）の紹介、交流イベント、ワークショップの開催を通じて地域社会に貢献する	
設立	2025年1月		
問い合せ先	naweatnaweat3838@gmail.com		

事業名　ブラジルフェスティバル in 山口

事業の目的

○地域住民にブラジル文化を身近に感じてもらい、地域社会の繋がりを深め、交流を促進する

事業の内容

○ブラジルフェスティバル in 山口

開催日	10月4日（土）	開催場所	Aスクエア（山陽小野田市）	参加者	約200人
内容	• カポエイラ・サンバ体験会、サンバショー・音楽ライブ、ブラジル料理・物販、ポルトガル語で話そうなどの交流企画、クロージングセレモニー				

事業の成果

○雨天にも関わらず、地域の外国人を含む老若男女、約200人の来場があり、音楽や言語、身体表現を通じてブラジル文化を体感していただくことができた
○オーストラリアから招いたカポエイラ師範や県内外のアーティストによる交流により国際的な文化交流の実践例として高い評価を得ることができた
○地域住民とブラジルコミュニティーとの交流促進が進み、新たに地域関係者や協賛企業とも繋がりができた

現場活動レポート

2025ブラジルフェスティバルin山口
日時：10月4日(土)11:00～16:00／場所：Ａスクエア

◆熊谷代表を中心に円陣を組んで開幕し、陽気なサンバのリズムでダンスの輪ができました。
◆カポエイラ（格闘技のダンス）は、ブラジルの伝統楽器の演奏にあわせて、相手に触らずに絶妙な距離感で戦いを表現していました。
◆ライブイベントでは、日本のサンバの父と呼ばれる吉田豊氏やジョー・ダ・バビロニア氏による生演奏や地域のドラマーとのコラボ、サンバのダンスなど。
◆ブラジル料理のキッチンカーやポルトガル語であいさつするなどの交流企画もあり、ブラジルを五感で感じるイベントでした。



▲ オープニング



▲ カポエイラ



▲ ライブイベント

団体名　一般社団法人　多言語図書館　（下関市）

代表者名	新田 隆充	団体の目的	
構成員数	7人	• 外国人や外国にルーツのある人たち等に対して、言語文化の継承や発展、教育、交流等をすすめるとともに、情報提供等を行い豊かな多文化共生社会の実現に寄与する	
設立	2021年12月		
問い合せ先	nittacu@gmail.com		

事業名　本や言語学習を通じて地域に多文化共生の基盤を整備する事業

事業の目的

○蔵書の整備や語学学習会を通して、地域住民と外国にルーツを持つ人々とが交流できる機会を作り、誰もが安心して暮らせる多文化共生社会をつくる

事業の内容

○初心者と学ぶ○○語学習会

外国語（参加者）	・ベトナム語・・・・・10回（71人） ・インドネシア語・・10回（55人） ・中国語・・・・・・・・　1回（　5人） ・ポルトガル語・・・　1回（10人）	開催場所	まちライブラリー@月いち下関 しものせき市民活動センター
内容	• 発音、基礎文法、挨拶などの基本的なやりとり		

○蔵書構築
ベンガル語、タイ語、アムハラ語、ミャンマー語、モンゴル語、フランス語、スペイン語、日本語教育に関する本など

○外国人雇用企業用に様々なサイズの紙のカタログを作成

事業の成果

○市内の企業から講師の紹介や会場の貸与等の便宜を受けるなど、顔の見える関係をつくることができた

○新しく、市内の団体と協働して事業を進めたり、イベントを開催するなどの機会を増やすことができた

活動現場レポート

初心者と学ぶインドネシア語学習会
日時：9月27日（土）13:00～15：00／場所：まちライブラリー@月いち下関

◆参加者は中学生から高齢者まで10人。インドネシア語学習会の3回目であり、ある程度の日常会話や単語等は理解されている様子でした。
◆新田代表の通訳で正式な発音や微妙なニュアンスを説明され、とてもわかりやすくスムーズに進められました。
◆「言語学習」ということでしたが、「学習」というより、外国のことを知る・体験するといった雰囲気が強く、初心者も楽しく参加できる和気あいあいとした交流となっていました。



◀ 新田代表が通訳をしながら



◀ ゆったりとした雰囲気で

団体名　夾竹桃の会　（下関市）

代表者名	金子　達昭
構成員数	12人
設立	2021年4月
問い合せ先	wadarakuten@gmail.com

団体の目的

- 唯一の被爆国である日本の悲惨な記憶を風化させはならない、という思いを持つ市民によって設立し、記憶の風化ではなく継承を行って行く

事業名　市民参加の朗読劇「少年口伝隊一九四五」+「戦争童話集」上演

事業の目的

○山口県は、現代の文化芸術活動に関しては地元の芸術家の活躍の場が少なく、若手が流出している現状があることから、演劇を通して地域活性化を図りたいという人材を守り、育てていく

事業の内容

○少年口伝隊一九四五（市民参加朗読劇公演）

開催日	1月10日（土）	開催場所	下関市民会館	参加者	338 人
内　容	• 被爆体験トーク、朗読劇「少年口伝隊一九四五」など				

○忘れてはイケナイ物語（野坂昭如戦争童話集朗読）

開催日	1月11日（日）	開催場所	下関市民会館	参加者	168 人
内　容	• 下関大空襲、小月航空隊トーク • 朗読と音楽「年老いた雌狼と女の子の話」「千からびた象と象使いの話」				

事業の成果

○戦後80年、被爆後80年の年に被爆体験談と朗読劇を実施することで世代を超えた出会いと支えあう社会の大切さの学びの場を作ることができた
○楽器の演奏や合唱、フラダンス等との文化芸術のジャンルを超えたコラボレーションを試み、固定しがちな公演形態を変化させることができた

活動現場レポート

市民参加の朗読劇公演「少年口伝隊一九四五」
日時：１月１０日（土）13：00～15：30　／場所：下関市民会館中ホール

◆ まず、「ヒロシマ・ナガサキ体験トーク」として被爆体験や家族から聞き取ったお話がありました。
◆ その後、市民も参画した朗読劇「少年口伝隊一九四五」が上演されました。若い方たちの演技はとても堂々としており、会場からは惜しみない拍手が送られていました。
◆ 他にも平和を願うフラの披露や女声合唱、リコーダーや箏の演奏など下関市の文化芸術に携わっている団体のゲスト出演もあり、横の連携も強く感じられました。





団体名　高齢社会をよくする下関女性の会（ホーモイ）　（下関市）

代表者名	田中　隆子	団体の目的	
構成員数	59人	• 少子高齢化の現実をしっかり見つめ、全ての人たちが自立し共に支えあい、安心して生きられる市民社会の創造を目指す	
設立	2023年5月		
問い合せ先	takataka-09@jcom.home.ne.jp		

事業名　2025年度 市民福祉講座

事業の目的

○ 高齢者の介護を社会全体で支えるとした介護保険制度が、次第に使いにくくなっている現状を知り、「住み慣れたわが家で最期まで暮らしたい」今後の在宅医療、看護、介護を考える講座の開催

事業の内容

○ 2025年度市民福祉講座

開催日	9月27日（土）	開催場所	福祉プラザしものせき	参加者	153 人
内容	• 講演「介護保険制度の現在と未来」（石田路子氏） • シンポジウム「どうなる介護保険」（医師、社会福祉法人事務局長、介護支援専門員、下関市福祉部担当課長、梅光学院大学生）				

事業の成果

○ 講座参加者に介護保険制度の現状を知っていただくことができた
○ アンケートをもとに、介護保険制度の改善を求める請願書を作成し、下関市長、下関市市議会議長に提出することができた

活動現場レポート

２０２５年度市民福祉講座
日時：9月27日（土）13：00～16：00
場所：福祉プラザしものせき

◆ 高齢社会をよくする女性の会副理事長、石田路子氏の講演があり、介護保険制度が当初の理念に反して徐々に歪められている現状に対して、問題点を把握し反対と思えば声を上げていくことが大事とのお話がありました。
◆ その後のシンポジウムでは、下関市から取組状況や在宅医療に取り組んでいる医師や社会福祉士、ケアマネージャーの方たちからの介護の現状と問題点が報告され、梅光学院大学生からも漠然とした不安が身近な問題として認識できたとの意見がありました。



▲　基調講演



▲　シンポジウム



▲　熱心に聞き入る参加者の皆さん

団体名　下関空襲・終戦展実行委員会　（下関市）

代表者名	瀬谷　由美子	団体の目的	
構成員数	8人	• 市民目線で戦争を捉え、学び、表現することにより、広く多くの市民とともに恒久平和を推進し次世代へつなぐ	
設立	2006年1月		
問い合せ先	shimonosekikushu@gmail.com		

事業名　戦後８０年の記憶と記録～第２１回下関空襲・終戦展

事業の目的

○戦後80年の節目の年に、戦争の実態と戦時下の先人の思いを次世代につなぎ、平和を考える機会を創出する

事業の内容

○企画展「戦後80年の記憶と記録～第21回下関空襲・終戦展」

開催日	6月28日（土）～7月6日（日）	開催場所	しものせき市民活動センター	参加者	360人
内容	• パネル展示（下関空襲の実態、戦時下の人々、引継がれる平和への想い） • 親子展示解説会（7/5） • DVD上映会				

○企画展特別講演「下関空襲と関門海峡への機雷投下」

開催日	6月29日（日）	開催場所	しものせき市民活動センター	参加者	50人
内容	• 戦史研究家、工藤洋三氏による講演				

○その他出張展示、出張講演会、展示協力等（13回）

事業の成果

○下関市民の下関空襲の認知度が想像以上に低いことが分かった
○市内全小学校への広報や林間学校、出張展示等でのアプローチにより小学校児童を中心に若年層への訴求を図ることができた

活動現場レポート

戦後８０年の記憶と記録～第２１回下関空襲・終戦展　親子展示解説会
日時：7月5日（土）10：30～12：00／場所：しものせき市民活動センター

◆下関出身の写真家、上垣内茂夫氏の写真を中心に30点を展示。当時の被災地の写真と、現在の同じ区域が比較ができたり、空襲時子どもだった方の証言が展示されていたりと、多くの人が興味を持って戦災について学べる工夫がされていました。
◆親子を対象とした展示解説会も開催され、小学生が熱心にメモを取りながら解説を聞いたり、質問していました。
◆写真や証言をもとに会で制作されたDVDの視聴コーナーでは、多くの人が足を止めて思いを馳せていました。

展示解説会 ▶





DVDコーナー ▶



団体名　Mint（ミント）　（下関市）

代表者名	柴田 久美
構成員数	12人
設立	2022年2月
問い合せ先	come-care2011@outlook.jp

団体の目的

- 年齢を問わず健康に関わる問題の改善や解決を図り個々に寄り添いサポートする

事業名　笑顔で健口事業

事業の目的

○妊婦・乳幼児から高齢者まで幅広い年代の方々に口腔の健康維持の重要性を理解してもらい、予防的ケアや口腔機能の問題等についてサポートを提供し生活の質向上を図り、口腔ケアの実践を促進する

事業の内容

○Mintスタッフ歯科衛生士による健口イベント

開催	23回	開催場所	下関市内各所	参加者	延べ1,334人
内容	• 講話 • 健口体操（Mint体操） • お口のレクリエーション大会 • パタカ替え歌 • 早口言葉 • 個別相談 • 口腔機能測定（シリーズ化で数値比較） • 口腔PH測定 • ブラッシングポイント・プラークチェッカー（シリーズ化で数値比較） ※場所や共催するイベントにあわせて実施				

事業の成果

○地域住民の口腔健康への関心向上とセルフケア意識の醸成につなげることができた
○下関市内の他地区への展開により地域格差の縮小や歯科保健サービスへのアクセス向上を図ることができた

活動の写真



▲個別相談



▲保健推進員イベントでの講話

団体名　特定非営利活動法人　IRIS（アイリス）　（宇部市）

代表者名	濱田　剛士	団体の目的	
構成員数	14人	• 子ども、親、高齢者、障がいのある方など、全ての人々が暮らしや生きがいを共に作り、子どもたちや若い世代につなげていき、安心して暮らせる地域共生社会の実現を目指す	
設立	2022年7月		
問い合せ先	iris.ubecity@gmail.com		

事業名　キッズマーケット

事業の目的

○ 現状では、子どもへの経済教育が不足していることから、「お金を稼ぐこと」「貯めること」「使うこと」について実践的に学ぶ機会をつくり、自主性・コミュニケーション能力の醸成とともに金銭感覚を身に付ける

事業の内容

○ キッズマーケット（体験型フリーマーケット）

開催日	①7月21日（月・祝） ②11月24日（月・祝） ③2月23日（月・祝）	開催場所	①ときわ湖水ホール ②ときわ湖水ホール ③湯田温泉こんこんパーク	参加者	①1,300人 ②1,300人 ③1,100人
内　容	• 出店者を小学3～6年生、購入者を未就学児～小学6年生として、子どもたちが自ら商品の準備、価格設定、接客、売買交渉、金銭管理を行う体験型経済教育イベント				

事業の成果

○ どの会場でも多くの子どもたちに実体験の学びの機会を届けることができた
○ 地域団体や企業との連携、中学生の参加を得て地域の協働体制を構築することができた

活動現場レポート

キッズマーケット　VOL.5
日時：７月２１日（月・祝）11：00～12：00／14：00～15：00
場所：ときわ湖水ホール

◆ このイベントは「こどもが主体のマーケット」で、保護者は出店ゾーンには入れずハラハラしながら見守るだけとなっていました。
◆ 子どもたちは自分なりに値段交渉をしながら、希望の品を手に入れよう、売買を成立させようと頑張っており、とても生き生きと楽しんでいました。



▲ 出店ゾーンと保護者ゾーン



▲ 売買成立

団体名　うべ交通まちづくり市民会議　（宇部市）

代表者名	村上　ひとみ	団体の目的	
構成員数	14人	• 宇部地域の交通環境の改善に向け、市民の立場で通勤・通学日常生活の自転車や公共交通利用などを促す活動を進めることで、持続可能な地域社会の実現を図る	
設立	2010年7月		
問い合せ先	htmmrkmyu@gmail.com		

事業名　自転車通学路ワークショップと自転車まちづくりシンポジウムin Ube

事業の目的

○車道の自転車通行時の危険な状況や、マイカー保有増に伴う自転車利用の減少を踏まえ、自転車の効用を市民に発信し環境改善に取り組む

事業の内容

○自転車通学路点検ワークショップ

開催日	①7月30日（水） ②8月　6日（水）	開催場所	宇部市立黒石中学校と通学路	参加者	25人
内　容	①中学生、教員、市道路整備課、警察等と自転車で通学路を走り、点検、撮影 ②調査結果を基に自転車注意箇所（ハザード）マップを作成し、気づきを発表				

○第8回自転車まちづくりシンポジウム in Ube

開催日	2月7日（土）	開催場所	宇部市役所市民交流棟	参加者	30人
内　容	• 基調講演「自転車ネットワークの先進事例と見てわかる自転車安全教育」「観光地の駐輪施設のデザインと利用環境改善」、パネルディスカッション				

事業の成果

○点検ワークショップには、行政や警察などの専門家や宇部高専の自転車の安全に取り組むチームの参加もあり、参加中学生への啓発として得難い経験となった
○シンポジウムの開催には地域内外から幅広い分野からの参加があり、有意義な啓発の機会となった

活動現場レポート

第８回自転車まちづくりシンポジウムinUbe
日時：2月7日（土）場所：宇部市役所　市民交流棟２F

◆基調講演では、二人の講師から京都市、金沢市の先進地事例の紹介がありました。
◆休憩時間には、宇部高専生の取組のプレゼンもありました。
◆パネルディスカッションでは、講師に加えて県警、黒石中学校、村上会長が発言者となり、宇部市の自転車を取り巻く現状と課題について理解を深めました。


▲藤本講師


▲パネルディスカッション


▲宇部高専生のプレゼン

団体名　宇部自然保護協会　（宇部市）

代表者名	村田　俊宏
構成員数	42人
設立	1974年9月
問い合せ先	ubeshizenhogo@gmail.com

団体の目的

- 自然保護を基調とした快適な生活環境を維持するため、宇部近郊の自然に親しみ調査研究し、その保全に努めるとともに自主的実践活動を通じて郷土の発展に寄与する

事業名　宇部北部、小野湖の保全と周辺の整備作業

事業の目的

○小野湖の清掃作業を通して、自分たちが使用する水源の現状を肌で感じてもらう

事業の内容

○ 第51回小野湖清掃作業

開催日	8月24日（日）	開催場所	宇部市小野区櫟原	参加者	63人
内容	• 櫟原の入江のゴミの回収				

○ 第6回クリーンウォーキングin小野湖

開催日	11月16日（日）	開催場所	小野湖周遊道路	参加者	27人
内容	• アクトビレッジおの駐車場～小野大橋～渡瀬橋のゴミ拾い				

事業の成果

○小野湖周辺のゴミの現状を肌で感じていただくことができた
○クリーンウォーキングでは宇部野鳥保護の会の方から、聞こえる鳴き声の鳥の名や湖面のオシドリや鴨の紹介があり、豊かな生態系を育む場所であることを知ってもらうことができた

活動現場レポート

第６回クリーンウォーキングｉｎ小野湖
日時：１１月１６日(日)9:00～11:00
場所：アクトビレッジおの、小野湖右岸の道路沿い

◆「アクトビレッジおのを出発して小野大橋を右折して渡瀬橋を渡って引き返す」というコースで、参加者は火ばさみとゴミ袋を持って、それぞれのペースでウォーキングとゴミ拾いを行いました。
◆道路から湖への斜面には、缶や瓶、ペットボトルなどの他、タイヤやベッドマットなど粗大ごみも捨てられており、心無い人の存在に悲しい気持ちになりました。
◆反面、紅葉を眺めたり、宇部野鳥保護の会の方に湖面を泳ぐ鴨の種類を教えていただいたりして晩秋の小野湖の自然を楽しむことができました。


▲ ゴミ拾い&ウォーキングへ出発


▲ 協力してゴミ拾い


▲ 回収されたゴミ

団体名　一般社団法人　SDGsてらす　（宇部市）

代表者名	久保田 后子
構成員数	14人
設立	2021年7月
問い合せ先	sdgsterasu@gmail.com

団体の目的

- SDGsの目標17について、市民活動で実施することにより、地域社会の課題解決や活力創造につなげ、暮らしやすく魅力ある地方創生を目指す

事業名　子どもみんなの勉強室（ひとり親家庭・子どもの学習支援）

事業の目的

○経済的理由で学校以外に学習機会のない子どもたちと特別支援学級在籍生徒たちに学びの場を提供する
○科学の魅力を体験する機会を提供する
○異年齢の児童が一緒に学び交流する場を提供する

事業の内容

○定例勉強室

開催日	①月2回（第1・3金曜日（4～7月）） ②月4回（金曜日（9～3月））	開催場所	SDGsてらす	参加者	185人
内容	①山口大学医学部学生による宿題サポート、自主学習の指導（4～7月） ②①に英語教員（第2金曜）、小学校教員（第4金曜日）を加えて指導を強化				

○夏休み特別プログラム

開催	7月～8月（8日間）	開催場所	宇部市恩田ふれあいセンター SDGsてらす	参加者	23人
内容	• 英語（英語の歌やゲーム、ディベート） • 理科（「宇部方式」、海ゴミの実態観察・実験、太陽光発電の模型工作）				

事業の成果

○小学校レベルからの学習が身についていない中学3年生を希望高校に合格させることができ、自己肯定感を高めると同時に学習支援のノウハウを充実することができた
○発達障害の特性を活かした指導を確立することができた
○異年齢の子どもたちが教えあうことでプラスアルファの効果もあった

活動の写真





◀ 定例勉強室 ▲



▲ 夏休み特別プログラム

団体名　CAP（キャップ）西京　（山口市）

代表者名	藤田　房子	団体の目的	
構成員数	16人	• 子どもが様々な暴力から自分自身を守るための人権教育・予防教育であるCAPプログラムを、子ども、保護者、教職員、地域の人々に提供し、暴力のない社会の実現を目指す	
設立	2001年9月		
問い合せ先	capsaikyo@gmail.com		

事業名　さくらんぼプログラムプレゼンテーター養成講座

事業の目的

○ 思春期にいる子どもたちに送る「さくらんぼプログラム」（SOSの出し方等に関するプログラム）を提供できるプレゼンテーターを養成し、人権教育・自殺予防教育のできる環境づくりを推進する

事業の内容

○さくらんぼプログラムプレゼンテーター養成講座

開催日	9月13日（土） ～14日（日）	開催場所	山口県健康づくりセンター	参加者	25人
内容	• さくらんぼプログラムプレゼンテーターの新規資格取得、及びフォローアップ				

○さくらんぼプログラム1

開催日	11月10日（月）	開催場所	下関市立川中中学校	参加者	220人
内容	• NPO法人にじいろCAP重永氏をプレゼンテーターとして開催				

○さくらんぼプログラム2

開催日	2月25日（水）	開催場所	ネムハイスクール高等専修学校（山口市）	参加者	約30人
内容	• CAP西京のメンバーをプレゼンテーターとして初開催				

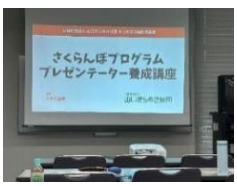
事業の成果

○さくらんぼプログラムのプレゼンタテーターを新たに14人登録することができた
○県内初のさくらんぼプログラムを開催することができた

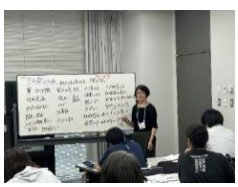
活動現場レポート

さくらんぼプログラム　プレゼンテーター養成講座
日時：９月１３日（土）10:00～17:00／場所：山口県健康づくりセンター

◆ NPO法人にじいろCAP（福岡県）からの2名の講師により、ペアワークなど中心に進められました。
◆ 島根県からもフォローアップとして多くの方が参加されていました（島根県では既にさくらんぼプログラムを実施されている）。
◆ 教職員や行政職員、社会福祉士の方などが参加されており、多方面からの関心の高さがうかがえました。







◀ 重永講師

団体名　徳地人形浄瑠璃保存会　（山口市）

代表者名	池田　大乗
構成員数	8人
設立	1969年3月
問い合せ先	ikedadaijo@gmail.com

団体の目的

- 徳地地域に伝わる無形民俗文化財「徳地人形浄瑠璃」の伝承者を育成するとともに、社会に検証して永く後世に伝える

事業名　地域の伝統芸能を継承する！～150年前の歴史、いまふたたび～

事業の目的

○これまで、中央小学校で徳地人形浄瑠璃を経験した地域住民や、市外の人形浄瑠璃に興味・関心を持つ人の中から後継者を発掘・育成する

事業の内容

○「文楽と徳地人形浄瑠璃」～原点回帰。そして未来へ～

開催日	10月19日（日）	開催場所	山口市徳地文化ホール	参加者	約190人
内容	• 同日開催された「とくぢ伝統芸能祭り」の後段で、大阪文楽座の技芸員から中央小学校6年生10人と会場参加者14人が三味線や語り、肩衣や三味線の着衣、操作などを学んだ				

事業の成果

○プロフェッショナルな技芸員による「素浄瑠璃」を体感し、魅力を実感していただくことができた
○本場文楽の師匠との繋がりができたことから、今後の定期公演や文楽、人形浄瑠璃を中心とした古典芸能の文化活動が定着を進める礎ができた
○徳地中学校文化祭での生徒による人形浄瑠璃上演に繋がったことから、中学校の人形浄瑠璃クラブが復活となり、後継者不足対策にもなった

現場活動レポート　徳地人形浄瑠璃と大阪文楽～原点回帰。そして未来へ～
日時：10月19日（日）10：30～13：30／会場：山口市徳地文化ホール

◆ 中央小学校の6年生7人による「徳地人形浄瑠璃」、竹本咲寿太夫による、素浄瑠璃「尼ヶ崎の段」の上演があり、本物の迫力ある上演に観客は圧倒されていました。
◆ その後のワークショップは、小学生に太夫が稽古をつけたり、興味のある人が舞台で三味線を弾いてみたりと、和気あいあいと浄瑠璃に触れる自由な時間となりました。



▲ 子どもたちの上演



▲ ワークショップ（稽古）の様子



▲ 三味線を弾いてみる観客

団体名　特定非営利活動法人 山口せわやきネットワーク（山口市）

代表者名	児玉 頼幸
構成員数	13人
設立	2003年6月
問い合せ先	info@asuhana.org

団体の目的

- 市民及び市民団体を応援し、もって、皆の幸せを考え、誰もが住みよいまちづくりを目指した新しい社会システムの構築を図ることにより、社会の公益の増進に寄与する

事業名　こども第三の居場所「Waku②BASE（わくわくベース）」学習支援

事業の目的

○ ひとり親家庭や就学援助など経済的に苦しい家庭の子どもたちが無料学習会や居場所などを通じて、学生ボランティアや地域の調理ボランティアなどの支援を受け、学力を上げるとともに自己肯定感を高め、貧困など困難な環境にも負けず、自分の力で生きていく力を身につけ、貧困の連鎖を防ぐ

事業の内容

○ 無料学習会（①中学生対象、②小学生対象）

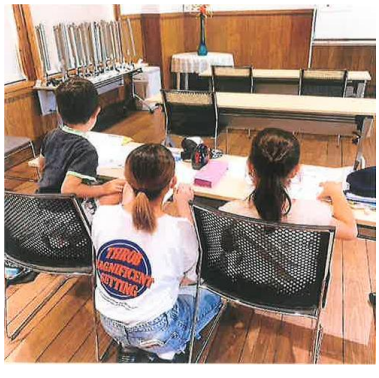
開催日	①毎週水曜日 17時～19時 ②毎週土曜日 9時～11時	開催場所	Waku②BASE（萩市）	参加者	延べ 455人
内　容	• 至誠館大学の学生を主としたボランティアが一緒に勉強したり話し相手になるなどして小中学生に寄り添った（調理ボランティアによる食事付）				

○ 平日昼間の不登校受入れを不定期に実施

事業の成果

○ 子どもたちの学力向上を図ることができた
○ 大学生との交流により、表情が明るくなり積極的に行動するなどの変化が生まれた
○ ひとり親家庭の親にとってもストレスや負担感が減り、孤立や虐待の予防になった

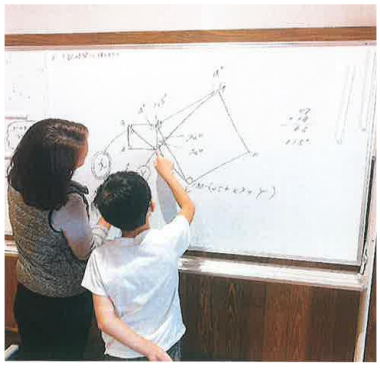
活動の写真



▲ 寄り添う学生ボランティア



▲ 無料学習会



▲ 意欲的に取組む

団体名　ハッピークローバー　（萩市）

代表者名	長谷 英治	団体の目的	
構成員数	11人	• 家庭・職場・地域社会において、善意の奉仕活動を通じ、笑顔のある心豊かな健康で生きがいのある地域づくり実現に寄与する	
設立	2021年4月		
問い合せ先	090-9504-5927		

事業名　生きがいづくりと健康づくりプロジェクト（笑いヨガ＆音楽健康セッション講座・夢を語るオカリナコンサート）

事業の目的

○ 中山間地域において必要とされる、高齢者の相互交流や生きがいづくりと生涯現役としての活躍の場づくり、健康づくりとその維持の重要性を啓発、発信し、地域を活性化する

事業の内容

○ 笑いヨガ＆音楽健康セッション

開催日	①4月20日（日） ②5月25日（日） ③7月27日（日） ④8月24日（日） ⑤9月28日（日）	開催場所	①八代ぬくもりの里（美祢市） ②俵山交流プラザ（長門市） ③宇部市福祉ふれあいセンター ④美祢市大嶺公民館 ⑤カリエンテ山口	参加者	①13人 ②35人 ③50人 ④15人 ⑤29人
内容	• 笑いヨガ、歌声広場、オカリナ広場				

○ 夢を語るオカリナコンサート

開催日	①11月14日（金） ②11月15日（土） ③11月16日（日）	開催場所	①イタリアンバールサルーテ（萩市川上） ②KURABO大正館（長門市） ③レクリエーションサポートセンター（萩市明木）	参加者	①18人 ②50人 ③23人
内容	• オカリナ＋ランチ、笑いヨガ等				

事業の成果

○ 笑いヨガでは目標に対して94%の集客、オカリナコンサートでは80%の集客、いずれも満足度は95%以上で好評だった
○ 笑いヨガや音楽を通して、多くの方に健康維持や生きがいづくりの意識啓発をすることができた

現場活動レポート

生きがいづくりと健康づくりプロジェクト（笑いヨガ＆音楽健康セッション）第3回
日時：7月27日（日）10：00～11：20　／会場：宇部市福祉ふれあいセンター

◆長谷代表から数々の不幸や病気を「笑いヨガ」の受講をきっかけに「幸せに生きるには笑うこと」で克服したこと、そして沢山の人に「笑えば心身ともに健康になり、健康だから生きがいも感じることができる」ことを伝えたいとの思いでこの活動をしているとのお話がありました。
◆笑いが生み出す心身の健康への効果を笑いを交えて伝えられ、終始和気あいあいとした雰囲気でした。
◆その後も懐かしい歌謡曲を一緒に歌ったり、オカリナの美しいハーモニーを聞いたり、心を癒されたひと時でした。


▲ 笑いヨガ


▲ オカリナ演奏

団体名　ボランティア団体　スヌーズレンを楽しむ会　（防府市）

代表者名	山根 文夫	団体の目的	
構成員数	16人	• 障がいのある人々が楽しく過ごせ、QOLの向上につながる活動としてスヌーズレンやブラックライトパネルシアターの体験を無料で行い、スヌーズレン活動を啓発する	
設立	2024年7月		
問い合せ先	qqnd2rr9k@aioros.ocn.ne.jp		

事業名　スヌーズレン無料体験およびブラックライトパネルシアター無料体験

事業の目的

○障がい者、特に発達障がい児・者の増加に伴い、特別支援学校やこども発達支援センター等の対応が困難になってきているが、薬に頼らず障がい児・者の心を落ち着ける空間・環境づくりの手段としてスヌーズレンを活用する体験会を開催する

事業の内容

○スヌーズレン無料体験会、ブラックライトパネルシアター無料体験会

開催	県内31件 県外55件	開催場所	特別支援学校、子ども発達支援センター、各種障がい児・者施設等	参加者	延べ 10,000人
内容	• スヌーズレン体験、ブラックライトパネルシアター体験、光るクレヨンワークショップ				

事業の成果

○助成金を活用することでスヌーズレン用品を拡充することができたことから、充実した体験会を想定の倍以上開催することができた
○体験会をきっかけにスヌーズレンルームを設置する事業所もあり、少しずつではあるが障がい児・者の居場所づくりに貢献できた

活動現場レポート　スヌーズレン　ブラックライトルームであそぼう
日時：８月３日（日）10：30～15：30／場所：防府市向島公民館

◆公民館の大会議室を「のんびりのお部屋」と「元気いっぱいのお部屋」の2つに仕切り、暗幕をおろして綺麗なライトが灯る空間を作成されていました。
◆「のんびりのお部屋」は光る絵本や光る砂時計、山口県の名所が描かれた光るタペストリーが飾られておりゆったりと過ごしたい子ども向け、「元気いっぱいのお部屋」は光るボールが沢山入ったボールプールやストラックアウト、ボーリング、巨大すごろく等が設置され体を動かして元気に遊びたい子ども向けとなっており、障がいの程度やその日の気持ち次第で無理なく過ごせるように工夫されていました。
◆高校生（防府商工）のボランティアが、遊び方をやさしく伝える姿も見られました。


◀遊びコーナーが沢山


◀家族で体験


◀いろいろな遊び道具や絵本

団体名　日立のぞみ会　（下松市）

代表者名	大本 博秀	団体の目的	
構成員数	130人	• 日立製作所笠戸事業所及び関連会社を退職した者（日立OB）の社会貢献・ボランティア活動の一環として、下松市内小学校での理科ボランティア活動や親子ものづくり教室等の開催を通じて、「理科好きの子どもたちを増やしてゆく」活動を展開する • OB相互の交流と親睦を深め、活力と生きがいのある人生の一助となること	
設立	2011年2月		
問い合せ先	shinichiro.kawane@gmail.com		

事業名　子供育成支援（～ものつくりを楽しむ）

事業の目的

○人口減少社会では、機械やICT技術を有効に活用できる人材の育成が重要。子どもたちに将来活躍する人材に育ってもらうべく、ものづくりを楽しむ環境やデジタル技術に接する機会を提供する

事業の内容

○ 3Dプリンタものつくり教室

開催日	① 7月27日（日） ② 8月 2日（土） ③12月21日（土）	開催場所	日立組合会館（下松市）	参加者	①小学生2人、中学生9人 ②中学生3人、高校・短大生2人、一般1人 ③小学生4人、中学生4人、高校生1人、一般1人
内容	• 造形ソフト（3DCAD）の学習とプログラミングの後、3Dプリンタに3DCADデータをインストールし、自動造形作業を行う				

事業の成果

○3Dプリンタを活用した造形技術を体験する機会の提供により、子どもたちが「ものづくり」に対する興味と関心を持つきっかけとすることができた

活動現場レポート

３Ｄプリンタものづくり教室2025
日時：７月２７日（日）９：00～15：00
場所：日立組合会館

◆まず、3Dプリンタの説明と出力手順、3DCADの操作方法等について、スライドを活用して詳しく説明がありました。
◆今回は、ネーム入りペン立てを作成テーマに設定し、作図に当たっては、事前講習を受けたスタッフが受講生に寄り添い、不明な点があれば手助けしながら一緒に作業を進めていました。
◆受講生（中学生9人は全員末武中学のコンピューター部）は、皆初めての体験で、時折笑顔を見せながらも真剣に取り組んでいました。



▲講師による説明



▲受講生に寄り添って入力が進む



▲3Dプリンタ

団体名　特定非営利活動法人 フリースペースコティ　（下松市）

代表者名	楠　恭子	団体の目的
構成員数	20人	• 地域の子どもたちやその保護者、子どもたちとかかわる地域の方々に対して、皆の多様性に応えるインクルーシブな「居場所」をつくり、多世代交流によって子どもたちの自立をサポートする
設立	2024年9月	
問い合せ先	freespace.koti@gmail.com	

事業名　安心安全でインクルーシブなサードプレイス

事業の目的

○不登校や発達障害、ネグレクトやヤングケアラーなど、様々な理由で子どもが学校に行きづらくなり家で引きこもっている現状が多くみられ、そういった子どもたちの課題を抱えた保護者を対象とした支援を行う

事業の内容

○「不登校から前に進める復学へのポイント」講演会

開催日	6月14日（土）	開催場所	スターピアくだまつ	参加者	約150人
内容	• ランさん（不登校コンサルタント）の講演 • トークセッション • 不登校支援団体紹介等				

事業の成果

○沢山の不登校の子どもを持つ保護者以外にも教育や行政関係者、議員等の聴講もあり、幅広く不登校に関する啓発ができた
○保護者の孤立感を減らし、安心して将来を考えられるきっかけを提供することができた

現場活動レポート

「不登校から前に進める復学へのポイント」～不登校コンサルタント
ランさん講演会
日時：６月１４日（土）14：00～15：30／場所：スターピアくだまつ

◆講師のランさんは自らのお子さんが不登校になったことをきっかけに、不登校の背景や原因を探り、心理学やメンタルトレーニングを学ばれたそうです。
◆ランさんの実体験に基づいた分かりやすく前向きなお話に、皆さん時折うなずきながら真剣に聴講されていました。
◆最後には、不登校の支援を行っている団体のご紹介もあり、いろいろな団体とつながりを持ち、連携しながら事業を進めている様子が伺えました。



▲講師のランさん



▲ 講演会の様子

団体名　愛宕まちづくり協議会　（岩国市）

代表者名	越澤 法男
構成員数	90人
設立	2021年5月
問い合せ先	cakkun-s.mam@sky.icn-tv.ne.jp

団体の目的

- 愛宕地区に暮らす住民自らが地域の現状や課題を把握して協働しながらまちづくりを行うことにより、誰もが愛宕地区への愛着と誇りを持ち、人と人とがふれあい、つながり、楽しく暮らしていける町の実現を目指す

事業名　老いも若きも盛り上がれ！ふるさと愛宕サマーフェスタ

事業の目的

○愛着あるふる里の絆を守り、住み慣れた地域で誰もがいつまでも楽しく暮らすことができる町づくりを目指す

事業の内容

○老いも若きも盛り上がれ!愛宕サマーフェスタ

開催日	7月26日（土）	開催場所	岩国市立愛宕小学校グラウンド	参加者	1,200人
内容	• 数年間途絶えていた盆踊りを復活 • 太鼓やよさこいなどのパフォーマンス、地域の保育園の園児100人による踊りなど				

事業の成果

○途絶えていた盆踊りを例年以上の参加者で復活させることができた
○イベントの開催に向けた取組の中で、地域の皆さんの「ふるさと愛」と絆を深めることができた
○協力をお願いしたすべての学校から、ボランティアやイベントブース、盆踊りなど多くの参加があった
○日米協会岩国からも遊具の設置などの協力と参加があった

活動現場レポート

老いも若きも盛り上がれ！愛宕サマーフェスタ
日時：7月26日（土）16：00～20：00／場所：愛宕小学校グラウンド

◆イベントスタート時は、まだ日が高く炎天下でしたが、地元のダンスサークルや小学生、保育園児によるダンス、和太鼓など、地域で様々な活動をしている皆さんが暑さに負けず元気にパフォーマンスをされていました。
◆地区内にある中学や高校、専門学校の学生等のブースがいくつもあったり、運営に関わる学生ボランティアも多数見受けられ、「老いも若きも」一緒になって盛り上げている様子がうかがえました。


▲ 炎天下でのパフォーマンス


▲ 中学生によるスライムづくり


▲ 看護学生による子どもあそび

団体名　いわくにだれでもジェンベ　（岩国市）

代表者名	藤田　陽子	団体の目的	
構成員数	6人	• 西アフリカの民族楽器ジェンベの普及とジェンベを通じた国際交流	
設立	2023年7月		
問い合せ先	daredjembe@gmail.com		

事業名　アフリカの太鼓を地域のチカラに！みんなで踊ろうアフリ盆ダンス

事業の目的

○地域住民や他団体が一体となった今までにない新しい企画として「アフリ盆ダンス」を創作し、誰もが参加できる新しい踊りを通した「交流の場」「異文化体験の場」をつくる

事業の内容

○楽曲づくりと演奏者の練習会

開催日	7月6日、13日、27日 8月3日、10日（日）	開催場所	旧美和東小学校	参加者	各回 10人
内　容	• 演奏の練習				

○踊りの練習会

開催日	①7月29日（火） ②8月　1日（金） ③8月　2日（土） ④8月12日（火）	開催場所	①ハーモニーみわ ②ハーモニーみわ ③下畑交流館 ④ハーモニーみわ	参加者	①24人 ②24人 ③13人 ④39人
内　容	• 踊りの創作と練習奏の練習				

○夏祭りイベントへの参加

開催日	①8月11日（月・祝） ②8月13日（水）	開催場所	①美和東部地区夏祭り ②下畑交流館	参加者	①　5人 ②80人
内　容	①ジェンベの演奏 ②アフリ盆ダンス　　※両日、うちわあーとで募金活動				

事業の成果

○「アフリ盆ダンス」をつくるという目標に向けてつながりや交流の機会を増やすことができた
○地域内外の未就学児から高齢者まで一緒になってアフリ盆ダンスを踊ることで「交流と異文化体験」の機会を創出し、交流人口も増やすことができた

活動の写真

うちわあーと作成 ▶





◀ アフリ盆ダンス練習会



▲ 下畑地区盆踊り大会

団体名　子育てサポート にじのわ　（岩国市）

代表者名	小原 夕依	団体の目的	
構成員数	4人	• 2025年4月から山口県で産後ケア事業の拡充が図られることを契機に、子育て支援の充実のため、より多くの子育て世代に産後ケア事業を知って活用していただく	
設立	2025年1月		
問い合せ先	nijinowa2025@gmail.com		

事業名　「子育てサポート にじのわ」地域定着事業

事業の目的

○ 産後ケアは出産後の母親が身体的・精神的に回復し、育児をスムーズに行えるようサポートするプログラムで、非常に重要なものであるが、現況あまり浸透しておらず、特に山口県などの地方では支援が行き届いていないため、多くの母親が必要な支援を受けられていない状況をイベントや講座の開催をとおして啓発する

事業の内容

○ 産後ケアや開業助産院の認知度向上

開催日	①6月14日（土） ②8月8日（金）	開催場所	①イロハーブ（岩国市） ②岩国刑務所錦和寮	参加者	①20組 ②13組
内容	• 産後ケア、育児相談発達相談等				

○ だっこの研修

開催日	①5月7日（水） ②7月7日（月）	開催場所	①②ゆい助産院 （岩国市）	参加者	①4人 ②4人
内容	• 支援者の知識と技術向上（あかちゃんの姿勢、抱っこの方法）				

○ 感染症対策に関する研修

開催日	8月28日（木）	開催場所	愛宕共用会館（岩国市）	参加者	12人
内容	• 感染に関する基礎知識、感染対策等				

事業の成果

○ 地域イベント内での相談会の実施や支援が届きにくい環境での開催を通じて、多様な家庭層への産後ケア事業の周知と相談対応を行うことができた
○ SNSやLINEを通じた情報発信を強化することにより継続的に情報を届けることで相談・利用につなげることができた

現場活動レポート

「子育てママフェス」における啓発事業
日時：6月14日（土）10：00～14：00／場所：イロハーブ

◆ 地域の母親向けの相談会イベント「子育てママフェス」に出展され、出産後の母親へ啓発を行われました。
◆ 無料で手形・足形アートが体験でき、赤ちゃんの体重測定も行われるということで、赤ちゃん連れの家族が多く賑わっていました。 助成金を活用して作成したチラシを用いて、産後の母親をサポートする支援制度について説明されたり、アンケートを取ったりと啓発活動も順調に進んでいました。

手形をとる ▶



体重測定 ▶





団体名　周東古代ハスの会　（岩国市）

代表者名	南谷　多賀男
構成員数	15人
設立	2010年4月
問い合せ先	090-5693-5715

団体の目的

- 古代ハスを通じて花いっぱい運動の推進と環境美化に努めるとともに、会員の親睦融和を図り、さらに平和と友好のしるしとして他地域との交流を深める

事業名　周東ビオトープステップアップ事業

事業の目的

○これまで推進してきた環境美化・環境保全活動をさらにステップアップし、ビオトープ事業を充実させ、人と自然が共存するビオトープ公園として、心豊かで自然を愛するまちづくりに貢献する

事業の内容

○第16回周東古代ハスまつり

開催日	7月6日（日）	開催場所	古代ハスの丘展望公園（岩国市周東町）	参加者	約150人
内容	• 古代ハス・睡蓮が見ごろを迎える中、フルートやサックスホン等の演奏、俳句、短歌、絵手紙、写真大会等を実施				

○古代ハスの丘展望公園造りと植樹祭、小鳥の巣箱作り教室及び巣箱のかけ方教室、モリアオガエル産卵場所の整備とオタマジャクシの保護、アサギマダラ観賞会、ハッチョウトンボ産卵場の整備などを実施
○古代ハスまつり句歌集「古代蓮」を発刊

事業の成果

○古代ハスの丘展望公園を造ったことにより、市民のふれあいの場、自然学習の場、憩いの場として新たな活動の輪の拡がりが期待できる
○自然環境を守り、育て、調和する空間として、会の目指す、3つの池を中心としたビオトープ構想をさらに進めることができた

現場活動レポート

第１６回　周東古代ハスまつり
日時：７月６日（日）９：30～12：00／場所：丸太村万葉の池（岩国市）

◆企業や婦人会、ボランティアなどと共に整備されてきた古代ハスの丘展望公園を会場に16回目となる周東古代ハス祭りが開催されました。
◆今年のハスは例年より良く咲いているとのことでしたが、あいにくの猛暑で、午前中だけの開催となりました。それでもステージでは4人のアーティストによる演奏やトークでもりあがりました。
◆ハスの葉に飲み物を注ぎ、茎をストロー代わりに飲む「象鼻杯」や木工体験などのワークショップなど多くの方が楽しんでいました。



◀会場入り口

古代ハス▶





▲象鼻杯の説明

団体名　いぬいとみこの会　（柳井市）

代表者名	桑原　眞	団体の目的	
構成員数	18人	• 子どもたちの輝く未来のために柳井市と深い縁のある児童文学作家「いぬいとみこ」の顕彰を行い、「読書から子どもたちに夢と希望を」をスローガンに柳井市の読書活動を推進する	
設立	2023年6月		
問い合せ先	sumiey871@gmail.com		

事業名　「いぬいとみことムーシカ文庫の思い出」小松原宏子さん講演会

事業の目的

○柳井市ゆかりの児童文学作家「いぬいとみこ」の認知度をあげ、読書の大切さ、本の持つ力を伝え、共有する

事業の内容

○児童文学作家小松原宏子さん講演会「人生を変えた出会い」～いぬいとみことムーシカ文庫～

開催日	8月31日（日）	開催場所	みどりが丘図書館（柳井市）	参加者	47人
内容	• いぬいとみこさんと生前親交のあった児童文学作家小松原宏子さんの講演				

事業の成果

○小松原さんからいぬいとみこやその作品を紹介いただき、改めていぬいとみこを身近に感じてもらい、その功績を知ってもらうことができた
○本との出会い、人との出会いの大切さを感じてもらうことができた

活動現場レポート

児童文学作家小松原宏子さん講演会 「人生を変えた出会い」いぬいとみことムーシカ文庫
日時：８月３１日（日）10:00～11:30／場所：みどりが丘図書館（柳井市）

◆講演では、いぬいさんの写真や手書き原稿、ムーシカ文庫の写真など、様々な資料をスライドで写しながら、いぬいさんの人柄や、当時のムーシカ文庫の様子、作品のモデルとなった子どものことなど、小松原さんならではの貴重なエピソードがふんだんに紹介され、いぬいとみこをより深く知ることのできる機会となっていました。
◆本を読むことで様々な世界を疑似体験でき、想像力と創造力が養われ豊かな人生を歩む力がつく。いぬいさんは子どもと本の出会いの場を作りたくて文庫を開いたと思うと話されていました。



◀ 講演会の様子



▲ いぬいとみこさんの写真や本の展示

団体名　Ｓｅｅｄｓ（シーズ）　（柳井市）

代表者名	西本　利治	団体の目的	
構成員数	27人	• 都市農山村交流と自然環境保全活動を通して地域の活性化と子どもたちの健全育成を図る	
設立	2002年8月		
問い合せ先	tmgo@sunny.ocn.ne.jp		

事業名　里山再生事業地「お山の学校」機能アップ（２年目）

事業の目的

○ 里山再生事業地「お山の学校」の機能を高める

事業の内容

○「お山の学校」を中心とした活動

実施内容	開催日	開催場所	参加者
• 炭焼き原木採取、炭焼き	5月11日（日）、7月13日（日）、10月5日（日）、10月19日（日）、12月7日（日）、2月15日（日）	お山の学校（柳井市）	延べ54人
• 森林環境学習「森の学校」開催	10月6日（月）、12月1日（月） 1月16日（金） 2月12日（木）	柳北小学校（2回） 安下庄小学校 日積小学校	48人 16人 16人
• 森林環境整備	7月13日（日）、10月5日（日） 1月25日（日） 2月22日（日）	お山の学校（2回） 大里モデル竹林・ふれあいの森 しあわせの森	24人 11人 16人
• たけのこ交流会 • 里山探検隊 • きのこ交流会	4月20日（日） 7月27日（日） 10月16日（木）	お山の学校 お山の学校 お山の学校	35人 86人 13人
• ビオトープ新設作業	4月、5月、10月、2月、3月	お山の学校	延べ58人

事業の成果

○ 里山再生の活動を地道に続けることで、子どもたちの健全育成と地域づくり（地域が子どもを育てるという考え方）を進めることができた

活動の写真



▲ ビオトープ新設作業



▲ 里山探検隊

団体名 ふるさと維新YYプロジェクト （柳井市）

代表者名	山本 恭兵	団体の目的	
構成員数	11人	• 地域に暮らす若者を中心に経済・文化活動を通じて活力に満ちあふれた町を創造していく	
設立	2018年10月		
問い合せ先	taka_chemistry2005@yahoo.co.jp		

事業名 子どもたちがお金について学ぶ・考える・感じる

事業の目的

○ 金融や経済に関する正しい知識や判断力を身につけるため、親子で参加できる講座・体験を通して金融リテラシーを高める機会を提供する

事業の内容

○ 金融講座

開催日	①9月28日（日） ②7月12日（土） ③11月8日（土）	開催場所	みどりが丘図書館（柳井市）	参加者	①19人（年中～小3） ②10人（小2～小6） ③ 8人（〃）
内容	①おかいものごっこ②③株式投資体験				

○ 体験学習1

開催日	①11月2日（日） ② 3月4日（土）	開催場所	やまぐちフラワーランド（柳井市）	参加者	①20人（～中学生） ②16人（〃）
内容	• きっずまーけっと				

○ 体験学習2

開催日	8月23日（土） 8月24日（日）	開催場所	シーパラダイス室津道の駅上関海峡	参加者	12人（小1～中3）
内容	• 農水産物の収穫～販売				

事業の成果

○ 体験を通じた金融教育の機会を提供することにより、参加者の金融に対する興味・関心や学習意欲の醸成につなげることができた

○ 親子で一緒に体験する形式とし、家庭内での金融教育の実践の後押しをしたことで、将来的な資産形成意識の向上や地域全体における金融リテラシーの底上げにつなげることができた

現場活動レポート

夏休み自由研究～お金と投資～
日時：7月12日(土)　13:30～16:00／場所：みどりが丘図書館

◆ 小学生を対象とした金融講座で保護者も一緒に参加しました。
◆ 外国や日本の紙幣を触って寸法を測るなどして違いを比べ、通貨の単位などについて学びました。
◆ 「投資」の仕組みや身近な「会社」について学んだあと、投資体験をするためにそれぞれが投資したい「会社」について調べていました。
◆ 分かりやすい説明で、子どもたちも楽しく学べたようです。


◀ 講座の様子


◀ 紙幣の寸法測定

団体名　特定非営利活動法人 しゅうなんまちなか保健室（周南市）

代表者名	小野　薫	団体の目的
構成員数	12人	• 周南市の地域住民に対して、気軽に医療福祉の専門職等とつながる場を提供することで、生まれてから人生の最期を迎えるまで、自分らしくいきいきと暮らせるまちの実現に寄与する
設立	2021年3月	
問い合せ先	kunpemanamayu@gmail.com	

事業名　「まちなか保健室」活動拠点構築

事業の目的

○活動拠点を持つことで、相談事業などの活動などを増やし、改装等を行い、常設化を目指す

事業の内容

○相談事業・えんがわ事業

開催	第1・3・5水曜日、第2・4土曜日
内容	• 医師や看護師による医療や介護、暮らしの相談 • 安心して気軽に話をできる場の提供

○図書館事業

内容	• 医療・介護等に関する本の閲覧、一箱オーナー制度による貸出

○部室事業（弁護士や医療従事者による講話）

内容	• わくわくワーク（医療専門職や学生を対象）2回開催 • 学べる保健室（一般市民を対象）3回開催

■参加者：延べ346人

事業の成果

○まちなか保健室で相談を受け一緒に考え悩むことで、地域の不安を抱え悩む人の助けとなり、つながる場となることができた
○ワクワクワークでは専門職同士の意見交換もあり、レベルアップと共に、地域の課題解決につながるきっかけとなることができた
○学べる保健室では高齢者に「自分らしく、穏やかに住み慣れた街で過ごせる」よう活かしてもらえる介護等の知識を伝えることができた

活動の写真

▼オープニングイベント





◀学べる保健室

団体名　ふれあいの森なんでも工房　（周南市）

代表者名	村田　真博	団体の目的
構成員数	15人	・「元気な子どもと元気なおとなを育む森」を合言葉に、多様な施設を拠点に三世代交流企画や子ども食堂、子どもやお年寄りの居場所づくり活動を行う
設立	2001年3月	
問い合せ先	shunanfuremori@gmail.com	

事業名　お年寄りとみんなの食堂開設事業

事業の目的

○少子高齢化が進む中、特に独居老人が社会参加する場やお年寄りや市民皆の居場所（サードプレイス）づくりを「ふれあいの森」を拠点として進める

事業の内容

○子ども食堂開設（ふれあいの森）

実施内容	開催日	参加者
・ピザ作り	4月27日（日）	約600人
・うどん	5月25日（日）	
・海軍カレー	6月22日（日）	
・そうめん流し	7月27日（日）、9月28日（日）	
・海軍カレー	10月26日（日）	
・芋煮会	11月23日（日）	
・餅つき大会・ビンゴゲーム大会	12月28日（日）	

事業の成果

○コロナ禍以降、子ども会活動の激減や少子化、学校の部活動地域移行等、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している中、地域の子どもや高齢者の居場所づくりを行い、交流促進に取り組むことができた

活動現場レポート

子ども食堂「ふれもりランチ」
日時：１１月２３日（日）10：00～13：00／場所：ふれあいの森

◆今回のメニューは「いも煮」で、子どもは無料、大人は300円という金額設定でした。
◆調理は地元の婦人会や個人で参加されているボランティア（中学生のお母さんや社会福祉協議会の職員）が担当されており、和やかに鍋を囲まれていました。
◆参加者は50人ほどで、三連休の中日ということもあってか、いつもより少ないとのことでした。
◆12時前には料理が完成し、子どもたちから順番にいも煮とごはんが渡されました。屋外で食べる料理は格別で、参加者は家族や友達と楽しく食べていました。


▲いも煮調理中


▲配膳


▲食事を楽しまれる皆さん


▲手作りの温かいいも煮

団体名　難病サポートfamiliaやまぐち（ファミリア）　（山陽小野田市）

代表者名	岩屋　紀子	団体の目的	
構成員数	15人	• 難治性疾患を持つ者とその家族が安心して生活できる環境を整えるために必要な活動を行う	
設立	2019年2月		
問い合せ先	nanfami35@gmail.com		

事業名　未来の医療をつくるこどもたち　～創薬×次世代育成プロジェクト～

事業の目的

○ 子どもたちが薬の正しい使い方などについて理解するきっかけとして、「薬の役割」「製造プロセス」「適切な使い方」などを学ぶ場を提供する

事業の内容

①ワークショップ②工場見学③成果（おくすり新聞）展示

開催日	①8月2日（土） ②8月19日（火） ③12/1～12/31、3/14	開催場所	①Aスクエア（山陽小野田市） ②協和キリン宇部工場 ③山陽小野田市民活動センター　KDDI維新ホール	参加者	①51人 ②52人 ③合計　80人
内容	①薬の役割、正しい服用方法、添付文書の読み方などの学び、おくすり新聞の制作 ②製薬工場の見学 ③おくすり新聞の展示				

事業の成果

○ 子どもたちが創薬や製造、適正使用を学ぶ機会を提供することができた
○ 工場見学など現場の視点を取り入れた実践的な学びの場を設定することで薬の役割や安全性への理解が深まり、医療を自分事として考える視点を育むことができた

活動現場レポート

未来の医療をつくるこどもたち　自由研究　ワークショップ・工場見学
日時：８月１９日（火）13：00～16：00
場所：協和キリン株式会社　宇部工場

◆ 薬を作る「製造ライン」と出荷するまでの「梱包等のライン」を見学しました。
◆ 製造ラインは、担当者からサンプルを見せながら薬ができる工程などの説明がありました。
◆ 梱包等のラインでは、錠剤などに使われている包装の製造工程から箱詰めまでを動画で視聴しました。
◆ あらかじめワークショップで作っていた「おくすり新聞」に、今回の工場見学の感想、まとめ等を記入して完成させました。



▲ 薬ができるまでの過程の説明…興味津々にクイズに参加する子どもたち





▲ おくすり新聞完成

団体名　山口DARC（ダルク）　（山陽小野田市）

代表者名	渡慶次 稔	団体の目的	
構成員数	8人	• アルコール・薬物・ギャンブル依存症者の回復支援、社会復帰支援及び再発予防とその家族及び関係者の諸問題を解決するため、行政、医療機関、司法機関との連携を図り、よりよいネットワークを構築し、地域において健全で安心できる明るい社会を作っていく	
設立	2022年9月		
問い合せ先	yamaguchi-darc@outlook.jp		

事業名　依存症者とその家族の回復のためのプログラム提供・啓発活動

事業の目的

○依存症者家族の会が少ないため、相談拠点・勉強会の場として活動し、依存症者に対しての偏見や誤解を解き、助け合える社会を目指す

事業の内容

○山口DARCフォーラム

開催日	9月15日（月・祝）	開催場所	不二輸送機ホール（山陽小野田市）	参加者	115人
内容	• 基調講演 • 家族の体験談 • 山口ダルク利用者体験談 • 山口ダルク利用者によるエイサー演武				

事業の成果

○依存症に苦しむ本人や家族の回復や周囲への理解促進、啓発につながる事業として3周年記念フォーラムを開催することができた

○依存症者本人のコミュニケーションスキルの向上や社会復帰に向けた回復訓練の一環としても非常に効果があった

活動現場レポート

山口DARCフォーラム
日時：９月１５日（月）12：30～17：00
場所：不二輸送機ホール　小ホール

◆ 日本ダルク理事長、山口県精神保健センター所長の基調講演の他、薬物依存症の息子を持つ3人の親の体験談、山口DARCに入寮している3人の仲間の体験談の発表がありました。
◆ 親の体験談では、同じ境遇の人たちと悩みを共有できるダルクの存在にとても助けられていることなどの話がありました。
◆ ダルク入寮者のお話では、依存症等を経験していないとわからないことを織り交ぜながら、自分の人生に向きあうことができる現状を感謝を込めて話している姿が印象的でした。



▲家族の体験談の発表


▲基調講演


▲山口ダルク入寮者による
エイサー演武

団体名　一般社団法人 七福　（田布施町）

代表者名	松村　瞳	団体の目的
構成員数	4人	• 障がい者の文化芸術活動を推進するため、創作活動を通じた福祉サービスサポート、商業デザインへの起用・商品の流通、委託販売、イベントの企画運営など事業を行う
設立	2024年4月	
問い合せ先	freedom_0920@hotmail.com	

事業名　こだまアートストリート2026

事業の目的

○障がい者の自立支援・パラアートの市民権の向上・職業能力開発機会の創出、アートがまち並みに溶け込む文化醸成、児玉神社など地元文化への関心、市中心地域への集客

事業の内容

○こだまアートストリート

開催日	3月20日（金・祝）	開催場所	児玉神社周辺（周南市）	参加者	3,000人
内　容	• 周南市児玉町の一本の道を結ぶまちなかの会場を豊かで自由な感性を持つパラアートで彩り、作品展、ワークショップにより障がいのある人が描くアートの魅力と価値を伝える地域参加型の芸術祭				

事業の成果

○表現活動を求めている障がい者の活躍の場を提供することができた
○開催準備などを通じて、七福登録アーティストを増やすことができた
○神社や店舗、企業等との連携により、多くの方に来場いただけたことで、今後に循環・つなぐことができた

活動現場レポート

こだまアートストリート
日時：３月２０日（金・祝）10：00～16：00
場所：児玉神社周辺

◆本丁蔵部（本部）、児玉神社、徳山保健センター、古民家などにパラアートが展示されており、各所で作家が実際に作成したり、作家と市民が交流する場がありました。（本丁蔵部には協賛企業の受賞作品が多数展示）
◆周辺のコーヒー店などでも、ワークショップやタイアップ企画が実施され、天候にも恵まれて、人通りが絶えることがありませんでした。



▲ 児玉神社



▲ 本丁蔵部



▲ 徳山保健センター会場

団体名　ヤッチャレ田んぼ　（平生町）

代表者名	松永　里佳
構成員数	12人
設立	2024年1月
問い合せ先	anjing00monyet@gmail.com

団体の目的

- 地域の耕作放棄地を再生し、次世代へ豊かなふるさとの風景と農業文化を継承する
- 農作業を通じた交流の場を作り、子どもたちに食と農の大切さを伝える

事業名　耕作放棄地再生プロジェクト　～子どもたちに届けふるさとの米作り

事業の目的

○景観悪化や鳥獣被害の原因となっている耕作放棄地を再生して、地域の子どもたちに稲作を体験させ、薄れつつある地元農業への関心を持たせる

事業の内容

○ 耕作放棄地再生プロジェクト

実施内容	開催日	開催場所	参加者
• 耕起・整備作業	4月13日～5月1日	佐賀小学校周辺耕作放棄地	延べ15人
• 水路整理・草刈り・代掻き	5月24日～6月5日	田んぼ及び周辺水路	延べ15人
• 田植え体験	6月15日（日）	整備済み田んぼ	22人
• 除草・水管理	6月28日～7月中旬	田んぼ	延べ25人
• 水管理・追肥・イノシシ対策	7月下旬～8月中旬	田んぼ、周辺フェンス	4人
• 稲刈り・脱穀	10月18日（土）	田んぼ	20人
• 収穫祭	1月18日（日）	佐賀地域交流センター（平生町）	24人

事業の成果

○耕作放棄地の再生から収穫まで年間を通じて活動し、目標としていた3,000㎡の農地を整備、活用することで景観が改善され、周辺での鳥獣被害も減少した
○子どもたちが米作りの全工程（田植え→草取り→稲刈り→給食）を体験することで食と農への感謝と地元への愛着が育まれた
○地域住民、保護者、児童が共同作業を通じて繋がりを深め、地域コミュニティの活性化に貢献することができた

活動の写真



▲ 田植え体験



▲ 泥田で手植え



▲ 稲刈り

団体名　いわくに竹の会　（岩国市）

代表者名	佐古　雅子
構成員数	30人
設立	2023年4月
問い合せ先	iwakunitakenokai@gmail.com

団体の目的

- 放置竹林を整備し日本三大美林と呼ばれた岩国の竹林を復活させる
- 子どもたちが自然と触れ合える場の提供
- 竹の土壌改良資材を活用した米作りによる棚田の維持、存続

事業名　美しい竹林と竹を活用した資源循環農業の実践

事業の目的

○美しい竹林を岩国市の観光資源にする
○間伐した竹をパウダーにして資源循環型農業を実践する

事業の内容

○ 守内地区管理竹林での作業

実施内容	開催日	開催場所	参加者
• 自然に親しむ筍掘り	4月26日（土）、5月3日（土）	岩国市守内竹林	35人
• 竹の間伐、パウダー作成作業	4月19日（土）、5月22日（木）、7月13日（日）、10月18日（土）、12月7日（日）	岩国市守内竹林	延べ21人
• 竹を使った流しそうめん体験	8月24日（日）	宇津神社境内	30人
• 竹の行灯作り	12月20日（土）	今津ふれあいセンター	1人

○岩国市美和町の棚田でお米つくり

実施内容	開催日	開催場所	参加者
• 竹パウダーを土壌改良剤として利用した資源循環型農業の実践	4/17~10/25	岩国市美和町棚田	延べ196人
• しめ縄作り	①11月9日（日） ②12月20日（土）	①宇津神社 ②今津ふれあいセンター	①10人 ② 8人

事業の成果

○ 竹林の管理、活用から筍掘りや竹パウダーの作成、そうめん流しなど様々な事業を実施することができた
○ 竹パウダーについては、パウダー製作機械の調整ができず、予定通り作成はできなかったが、土壌改良剤として利用する循環型農業を年間を通して実施することができた

活動の写真

一列に並んで手植え ▶





しめ縄作り ▶



団体名　学生団体　フリーキャンパス　（下関市）

代表者名	津村　一輝	団体の目的	
構成員数	9人	• 廃校でのイベント開催やSNSの発信を通じて人々に廃校の現状や魅力を知ってもらう	
設立	2022年10月		
問い合せ先	freecan.shimonoseki@gmail.com		

事業名　廃校の魅力を広めたい！ 第二回学生による地域のための廃校再生プロジェクト

事業の目的

○廃校を有効活用し、地域の方々や子どもたちの交流や娯楽の場をつくる

事業の内容

○廃校文化祭in阿川

開催日	2月21日（土）	開催場所	旧下関市立阿川小学校	参加者	約130人
内容	• 豊北地区まちづくり協議会と共催 • カラオケ大会、お菓子の千本釣り大会、豊北かるた大会、ビンゴ大会、ワークショップ（リース作り、スノードーム作り）				

事業の成果

○廃校の活用を検討する過程で、視察などを通して下関市の廃校の現状を知ることができた
○廃校には、まだまだできることがたくさんあり、集客力があることが確認できた

活動現場レポート

廃校文化祭in阿川
日時：２月２１日（土）10：00～12：00
場所：旧阿川小学校（2020年閉校）

◆廃校となった校舎やグラウンドなどを活用してイベントが開催されました。
◆豊北町の梨の木や季節の木・花を使うリース作りやスノードーム作りのワークショップは、人気で午前中に受付終了となっていました。
◆かるた大会で使用されたかるたは、下関北高校の生徒が手作りしたもので、豊北地域の歴史、観光資源、文化などが題材となっており、題材を日頃から見聞きしている子どもたちは読み札が読まれるとすぐに絵札を見つけていました。
◆グラウンドの焚火カフェでは、お年寄りたちがカラオケから聞こえる音をBGMに、焚き火を囲んで盛り上がっていました。


▲リース作り


▲豊北かるた大会


▲カラオケ大会


▲焚火カフェ

団体名　特定非営利活動法人　OKAI（オカイ）CLUB（クラブ）　（周南市）

代表者名	岡井 里香
構成員数	12人
設立	2025年3月
問い合せ先	clubokai@gmail.com

団体の目的

- 周南地域の市民に対して、文化・スポーツ活動の推進及び健康の増進に関する事業を行い、市民のウェルビーイングとまちづくりに寄与する

事業名　大学生による地域スポーツ交流プロジェクト！

事業の目的

○指導者不足や生涯学習、多世代交流など、地域の健康・スポーツ振興に関する課題解決のため、多世代・多志向・多競技のスポーツ、遊び、レクリエーションを通した交流会を開催し、地域のウェルビーイングの向上につながる身体活動の機会と場をつくる

事業の内容

○ 多様な遊びやスポーツプログラム

開催日	4月2日（水）	開催場所	高水小学校	参加者	小学生30人、大学生7人
内容	• 遊び×スポーツ×EQプログラム（鬼ごっこ、ボールリレー、しっぽとり、外遊び）				
開催日	5月17日（土）	開催場所	勝間小学校	参加者	小学生30人、大学生13人
内容	• かけっこ交流（運動会に向けて「走る」ことを中心としたプログラム）				
開催日	8月1日（金）	開催場所	勝間市民センター	参加者	小学生36人、大学生4人
内容	• スポーツのたまご教室（協力して行う多様な遊びやスポーツのプログラム）				
開催日	8月2日（土）	開催場所	周南公立大学記念館	参加者	小中学生、保護者30人、大学生14人
内容	• 2025年度第1回しゅうなんスポーツ交流DAY!（バドミントン、ハンドボール、レクリエーション）				
開催日	8月24日（日）	開催場所	勝間市民センター	参加者	小中学生6人、大学生3人
内容	• 動いて楽しい!キッズスポーツDAY!（協力して行う多様な遊びやスポーツのプログラム）				
開催日	3月1日（日）	開催場所	周南公立大学記念館	参加者	中学生11人、大学生11人
内容	• 2025年度第2回しゅうなんスポーツ交流DAY!（チームビルディング、バドミントン、ドッヂボール）				

事業の成果

○子どもたちの放課後や長期休暇中の居場所づくりに寄与するとともに、異学年・多世代間の交流を促進することができた
○大学生が地域活動に参画する仕組みを実践的に構築できた

活動現場レポート

大学生とスポーツ交流ＤＡＹ！
日時：8月2日（土）12：30～15：50／場所：周南公立大学記念館

◆ 午後から1時間づつ、ハンドボール、バドミントン、その他の3部構成で実施されました。
◆ 団体と応援のスタッフが連携して、スポーツや体を動かす楽しさを伝えていました。
◆ ハンドボールやバドミントンは、周陽中学校では部活が設置されておらず、子どもたちが直接体験できる貴重な機会になったようです。

▼ハンドボール





▲バドミントン

団体名　平和志向のまちづくりの会　（周南市）

代表者名	永田　典隼	団体の目的	
構成員数	10人	• 周南地域の平和志向の持続可能なまちづくりを進めるため、歴史を踏まえた課題の抽出、解決策の検討及び実践を行う	
設立	2025年3月		
問い合せ先	fushiki24@shunan-u.ac.jp		

事業名　周南・平和志向のまちづくり推進事業

事業の目的

○ 周南市における過去の戦災の様子を紐解き、平和志向で持続可能なまちづくりのアウトラインを描き、提言することにより、平和に対する市民や若者の気づきや意識高揚につなげる

事業の内容

○ 戦争体験者への聴き取り調査
　・対象者：空襲体験者、戦後の復興体験者、現下の戦争体験者
○ 戦時中の痕跡探索・情報収集、周南市の関連行事への参加
　・大津島（回天記念館等）、周南市民俗資料館企画展、講演会「米軍記録による徳山空襲」等
○ パネルディスカッション「戦後80年思いをつなぐ、未来へ」～昭和100年これからの周南

開催日	12月13日（土）	開催場所	周南市立駅前図書館	参加者	35人
内　容	• 周南公立大学生16人による発表 • 徳山空襲やまちづくりに関する有識者、行政関係者との意見交換、パネルディスカッション • 養老孟司氏のビデオメッセージ				

事業の成果

○ 戦後80年目の平和意識の再認識をすることができた
○ 周南市へ提言書を手交することにより、学生目線でのアイデアを提供することができた

活動現場レポート

「戦後８０年思いをつなぐ、未来へ」昭和100年これからの周南
日時：12月13日（土）14：00～16：00／場所：周南市立駅前図書館 交流室2

◆ 学生たちが調べた周南市の戦争の歴史や被害の状況をはじめ、聴き取りをした当時の様子や戦争の悲惨さ、平和の大切さについての発表があり、その内容を「これからの周南」として提言書にまとめ、周南市に手交されました。
◆ 有識者や行政関係者によるパネルディスカッションは、周南市中心部が戦後の復興のまちづくりの中、いかに計画的に未来を見据えた設計、デザインで作られているかというものが中心で、行政、企業、学識経験者がそれぞれの立場から意見を述べられていました。

▼ 学生の発表





▲ パネルディスカッション

▼ 養老孟司氏のビデオメッセージ



団体名　ＴｉｐＴｉｅ（ティップ・タイ）実行委員会　（下関市）

代表者名	日下 まりあ 竹本 梨乃 宮城 宏明	団体の目的	
構成員数	4人	• 下関市内在住の20～30代の若者が中心となり、地域資源を活かしたイベントを行うことで、中心市街地と中山間地域の多拠点を結ぶ「回遊性」をまちに生み出し、地域経済の発展と、市民・観光客一体となった賑わいを創出する	
設立	2024年1月		
問い合せ先	tiptie.info@gmail.com		

事業名　ＴｉｐＴｉｅ２０２５

事業の目的

○地元の飲食店やカフェ、雑貨店などに県内外の作家によるアートやクラフト作品を展示・販売する期間を設け、まちに点在する様々な場所で、クリエイティブに触れる機会を創り出し、日常空間にこれまでと違った地域への新鮮な視点、魅力の再発見機会を提供する

事業の内容

○TipTie2025

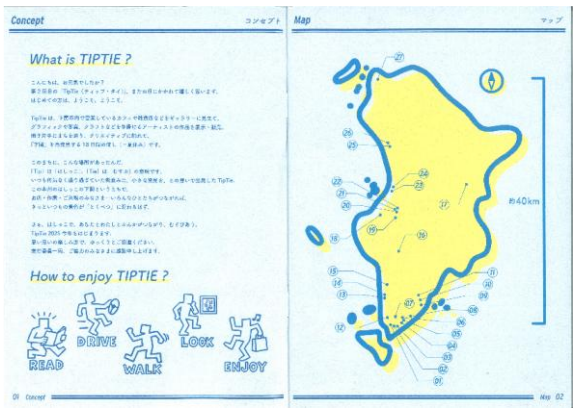
開催日	7月25日（金）～ 8月11日（月・祝）	開催場所	下関市内のカフェ・飲食店、雑貨店など27拠点
内容	• 下関市内の飲食店等をギャラリーに見立て、イラストレーションや写真、クラフトなど様々なジャンルの作家（36組）による作品を展示・販売する、回遊型イベント		

事業の成果

○目標としていた参加店舗数27拠点、参加クリエイター36組、SNS閲覧数の大幅増加、来場者によるSNS投稿200件以上などを達成し、下関市の中心市街地から中山間地域までを横断する「回遊性」が実際に生まれ、来場者が複数店舗を巡る動きを確認することができた

○下関のお店と様々なクリエイターを組み合わせたことで「文化・アートを通じたまちづくり」という新しいアプローチを提示することができた

活動の写真



▲ 公式ガイドブック ▶

新聞報道 ▶



団体名　めで部　－Ｍｅｄｅｂｕ－　（宇部市）

代表者名	松岡　理	団体の目的
構成員数	33人	・「宇部を愛する若者を増やす」を目標に、山口県の医師不足、偏在という問題を解決するため学生が主体となって県内で働く医師の魅力を伝える
設立	2024年8月	
問い合せ先	medebu2024@gmail.com	

事業名　「山口県で熱く生きる医師」紹介動画制作事業

事業の目的

○県内で熱い思いを持って働く若手医師を紹介する動画を作成して山口大学医学部医学科の学生や医学部志望の高校生を対象に上映し、地域医療は課題が山積する分、医師の力量が問われるチャレンジングな領域であることを知ってもらうとともに、将来、熱意を持って働く未来を想像してもらう

事業の内容

○動画の制作
・第1弾「美祢市立病院　総合診療科　下川医師」・10月完成
・第2弾「鈴木英太郎医師　小児科（病児保育）」・3月完成

事業の成果

○総合診療医と病児保育をテーマとした2本の動画を制作することができた
○視聴した医学部生に、山口県で働くことの魅力ややりがい、さらには医師不足が課題となっている特定診療科の重要性や面白さを具体的に伝えることができた

活動現場レポート

「やまコミ」（山口修学資金学生勉強会）での医師紹介動画上映
日時：12月19日（金）17：30～17：55
場所：山口大学医学部附属病院A棟２F大会議室

◆「やまコミ」（山口県医師修学資金貸与学生が主体となって運営する勉強会）が開催され、1年～3年の医学生約60人が参加されていました。
◆冒頭、会長の松岡さんから、めで部の紹介と今回動画を作成した経緯が語られ、「県内で熱く地域医療に携わる医師の姿をぜひ見ていただきたい」との挨拶があり、その後約15分の動画が上映されました。
◆動画は美祢市立病院で地域医療に関わっている下川医師にスポットを当て、日頃の診療の様子や、どのような思いで医療に携わっているかなどのインタビュー、学生に向けたメッセージ等で構成されていました。

▼動画の一コマ（美祢市立病院下川医師）





▼動画第２弾（鈴木医師）





発行　　令和８年（2026年）１０月

公益財団法人
山口きらめき財団
YAMAGUCHI KIRAMEKI FOUNDATION

〒753-0021
山口県山口市桜畠三丁目2番1号　山口県宮野庁舎2F
TEL　083-929-3600　　FAX　083-924-9096
Email　info@y-kirameki.or.jp